

「サークルの数を減らしたい」

サークルに関わる
職員・副学長の実際の暴言。

「守れないなら潰れて当然だ」

「大学HPはみんな見る決まりになっている」

「どのサークルにも説明するつもりはない」

ふざけるな！「ボックスは…悪く言えばゴミ箱」

「僕らの大学」を取り戻そう！

『誓約書』 ふざけるな！

この間、私たちは京大の立て看板規制問題とともに、
広大のサークルに今年急に課せられることになった、
『誓約書』に反対して訴えています。

22日昼休みには、私たちが訴えているところにサークル
担当である、**学生生活支援グループのリーダー**がやっ
てきて演説を妨害！「広大生も注目しているし、この場
で見ている学生たちに誓約書の意義について説明してほ
しい」と何度もマイクを渡したにも関わらず、「森田
(委員長)には説明した(から説明しない)」「お前は
誰だ」「**団体を抜けろ**」など個人攻撃に終始し、一切周
りの学生に説明することはありませんでした。

それどころか、最後にグループリーダーは「(誓約書を)
守れないサークルは潰れて当然だ！」と吐き捨てていき
ました。これが「ホンネ」です。学生の前でまともに説
明できないだけでなく「潰れて当然」と言い放つ。学生・
サークルをなめきっているとしか言いようがありません。

団結した学生の力を示して、『誓約書』を撤回させま
しょう！

団体解散も！ 『誓約書』の中身とは

「守れないサークルは潰れる」はまさに『誓約書』の
中身そのものです。

4月半ばに突如もみじのHPが書き換わっており、そこ
に今年のサークルの団体更新には『誓約書』と『サーク
ル規約』の提出が必要であると何の事前通知もなく示さ
れました(<https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/life/circle-touroku.html>)。

内容は、大きくはハラスメント・飲酒(未成年飲酒・一
気飲みなど)・SNS利用への注意ですが、「**不敬な表現は
しない**」など判断基準が不明なものもあります。

問題なのは誓約書最後の「守れなかったとき…団体届
を取り下げ(≡解散)」ることを大学に誓うという内容
です。『誓約書』にそのまま従えば、一人でも「違反」
したサークル員がいれば解散、ということになります。

サークルを変える力はサークル員自身にしかありませ
ん。説明もせず解散をちらつかせるとは、「学生が思い
描いてきた大学」とはかけ離れていると思いませんか？

広島大学学生自治会

委員長 森田寛隆

hirodai86@yahoo.co.jp

<http://hirodai86.blog.shinobi.jp/>



問題起こしてるのは “管理者”の方じゃないか！

『誓約書』にみられるような一方的なやり方はこの間横行しています。教員からも怒りの声上がり、「肉体と精神の限界」であるターム制導入を押し通してからの変化です。現場に不満があろうが、押し通してしまえば勝ちだという考え方でやっているのでしょう。

大学側(主に学生生活担当副学長)は、サークルを大学にとっての“訴訟リスク”だとか、“数を減らして管理する対象”として敵視していますが、日大の事件はじめ、**実際に問題を起こしているのはむしろ“管理者側”の人間ではないですか。**

広大でも昨年、研究室の学生を暴行していた教授のことが大問題になりました。しかし、その後再発防止の対策は何も取られていません。

学生や現場の教職員をなめているからこそその腐敗です。

団結すれば “変えられないこと” なんてない！

こんな大学、思い描いてきたような大学じゃない！
今こそ学生こそが大学を取り戻すために立ち上がろう！

ターム制導入が、文科省に取り入って「スーパーグローバル大学」に選ばれるためだったように、今大学側が進めている施策はいずれも**現場の学生・教職員を思っていることではありません**。そのため、大学はあらゆる決定事項についてまともに学生に説明できない状態です。

だから、学生が団結して声をあげさえすれば、大学を変えることはそれほど難しいことではないはずです。

もちろん時間はかかることではあるかもしれませんが。今やあらゆるサークルの勧誘やバイトの応募まで貼られることのある総科棟内の掲示板ですが、張り紙が全面禁止されていた時期がありました。**禁止が解除されたのは1400を超える広大生が声をあげたから**でした。それでも、禁止撤回までは**1年**たっぷりかかったそうです。

諦めないで団結して声をあげ続ければ、理不尽を跳ね返すことはできます！

京大生に続こう！

京大生が今まさに立て看板の規制をめぐって闘っています。**強制撤去にも負けず、自分たちこそが文化の担い手だと立ち上がっています**。京大生に続きましょう！

問題起こした 管理者側の人たち



日本大学のアメフト部の監督が、試合中に相手選手の背後からタックル（全治3週間の怪我）するよう指示したとされる事件。相手をつぶせば試合に出してやる」などと言ったとされる。

この監督は実は日大の職員から理事にまでなった人物。日大のナンバー2とさえ言われている。



広大の教授が研究室の学生に足払いをかけて唾を吐きかけ、馬乗りになって暴行した事が明るみになった事件。全治3週間のけがを負わせ、略式起訴で有罪となった。

この教授はよくテレビにも出演し、広大の広告塔として重用されていたと言われている。



京都大吉田キャンパス（京都市左京区）周辺の公道に面した多数の立て看板（通称・タテカン）が撤去され、一部の学生が反発している問題で、大学周辺の公道に新たな立て看板が設置されているのが14日、見つかった。撤去への抗議とみられ、今後も大学側と学生側の攻防が続くそう。

新たな看板は「タテカンカエシテ」、「こざっぱり」としてはる。」などと記載された数枚。いずれも13日朝に大学側が既存の看板を撤去した後、順次立てられたとみられる・・・

「タテカンカエシテ」
京大、タテカン撤去後すぐ新たな看板登場
(産経新聞 1/14)